

23 市町等の主な課題と対応策

※ ()内は課題への市町・団体の対応状況等

(1) 市町社会教育費の現状

- ・ 施設の老朽化とそれに伴う維持費の負担が課題である。(公共施設再配置計画などの市の全体計画の中で、住民サービスを維持しながら適正な維持管理に努めている。)
- ・ 小規模自治体であるため、施設管理や修繕に十分な予算が確保できない。(施設によっては職員が管理、修繕を行っている。)

(2) 市町社会教育関係職員の現状

- ・ 所管する業務が年々増加している。(事業の見直しを行う。)

(3) 市町社会教育委員の現状

- ・ 委員の高齢化により、次世代につなぐ選考が難しい現状である。(隔年の県外研修やさまざまな研修を通じて、委員自身が社会教育に興味関心を持ち、他の方々にも伝えてもらうよう尽力している。)
- ・ さまざまな社会教育関係団体の長を充て職にしているため、半数の方が1年で変わってしまうことが現状である。(特に対応はしていない。)

(4) ボランティアバンク設置・ボランティア活動の現状

- ・ 年々、講座生が少なくなっている。(講座内容の工夫や充実を図っている。)
- ・ ボランティアの内容がマンネリ化するとともに、参加者も固定化する傾向がある。(広くボランティア活動の良さを示すとともに、ボランティアの意義を理解してもらえるよう講座ごとに説明する。)
- ・ 現在、青少年のボランティア活動支援の事務局はあり、子育て団体のイベントなどに依頼があれば、中学生がボランティアとして出ている。(学校に関わりたい気持ちを持った方を対象としたボランティアバンクを立ち上げた。)
- ・ ボランティア講習会も7年目を迎えており、講習内容のマンネリ化と若い世代の育成が課題である。(講習内容としては、読書活動を支援する絵本のスペシャリストといった、子どもや絵本に関する活動経験が豊富で、魅力ある講師を選定するようにしている。若い世代の育成については、個々の団体に任せきりでなく、図書館が計画的に支援していく必要があると考えている。そのためには、地域全体を見渡す目を持ち、ボランティアをつなぐコーディネーター的役割を配置することが重要であり、その方法の検討について、今後進めていきたい。)
- ・ ボランティア同士の交流、意見交換をできる場が欲しいとの要望が高い。(ボランティア講習会の中で、各グループが実演できる回を設けたり、おはなし道具作成などのワークショップも導入したりして、グループを超えて交流できる機会をつくるようにしている。)

(5) 公民館運営審議会の現状

- ・ 充て職での委員が多い。(地域で活躍されている人材は公民館からも頼られており、充て職で負担をかけているケースも多い。)

(6) 公民館施設・体制の現状

- ・ 社会教育主事資格者が限られていることが課題である。(予算の許す範囲、資格取得の機会を増やしている。)

- ・ 常勤は公民館主事1名のため、主事が研修・文書配りなどの場合「公民館不在」となることがある。(週3日臨時職員が配置され、公民館不在になることが減った。)
- ・ 正規職員数が減少する中、地域づくりの拠点である公民館に求められる役割は年々大きくなっている。(事業の精選や経費の節減などの工夫をしている。)

(7) 公民館利用の現状

- ・ 該当なし

(8) 青年を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者が減少している。(夏休みの長期休暇を利用した親子を交えた体験型講座を企画している。)

(9) 女性(婦人)を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者が固定化、高齢化している。働く女性が多く、参加者が固定されている。(新規会員の募集を積極的に取り組む。)
- ・ 参加人数が少ない。(会員全員に呼びかけ、実施日を休日にすることで参加しやすくしている。)
- ・ 新規参加者を増やしたい。(公民館だよりや諸会合等での呼びかけを行い周知を図っている。)
- ・ 盆踊り講習会。講師の高齢化で、今後講習会開催が難しくなってくる。(類似のクラブなどへの入会の声かけを行っている。)
- ・ ぼかし作り講習会、廃油石鹸作り教室において、参加人数が年々少なくなってきた。 (公民館だよりでの周知や女性団体への声かけ等で参加を呼びかけている。)
- ・ 健康意識が高く、健康に関する講座への参加者が多い。(多様な実践活動への取組。主体的な社会参加の促進。)
- ・ 男性も積極的に参加する傾向にある。(継続した活動の実践に取り組んでいる。)

(10) 成人を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者が減少、固定化している。(公民館だより等で周知を図っている。地域内外に広く参加募集を呼びかけている。企画運営への学級生の参画を行っている。)
- ・ 参加者の確保が課題である。(講座の内容を工夫したり、形式を変えたりしてマンネリ化を解消している。)
- ・ 男性の参加者が少ない。(特に対策をとっていない。)
- ・ 地域によって男女の参加の比較差が大きい。(リーダー養成講座と参加者の自覚促進。)
- ・ 学習時間が少し長い。参加者の体力に合わせる必要がある。(移動時間も有効活用。)
- ・ 受講希望者が定員を上回っているが、座席の上限があるため全員を受け入れることができない。
- ・ 学級生の意欲と資質の向上。(主体的な社会活動の促進。継続的な取組が必要。)

(11) 家庭教育に関する講座の現状

- ・ 参加人数を増やしたい。(公民館だよりに掲載し、関係諸団体に案内文を配布してもらっている。)

- ・ 参加者の確保が課題である。(学校の参観日の機会やPTA懇談会の機会を活用して開催している。講座の内容を工夫したり、形式を変えたりしてマンネリ化を解消している。)
- ・ 定期的な学習をもつことは困難になってきている。(住民全体を対象に活動していく。)
- ・ 学習内容や学習方法等にマンネリ化が生じているため、PTAとの連携・協力が必要である。父親の参加が必要と感じる。(望ましい家庭環境や家庭教育の在り方の追及や子育てやしつけ等についての講座を充実させる。)

(12) 高齢者を対象とした学級・講座の現状

- ・ 参加者が減少している。(公民館だよりに掲載し、シルバークラブ会長、単位自治会長に周知のお願いをしている。老人クラブに加入していない方でも参加できるよう、ルール改正を行ったところもある。)
- ・ 男性の参加者が少ない。(夫婦での参加等と呼びかけるほか、来館者への声かけで参加者を募る。)
- ・ 心身の健康に関する活動が中心となっているため、ボランティア活動等の推進が必要である。高齢者の交通安全・認知症予防等の学習が必要である。高齢者だけの活動ではなく、他の学級との交流も必要である。(生きがい活動づくりや高齢者の特技を生かした活動と世代間交流を行う。)

(13) 青少年の地域活動の現状

- ・ 参加者の固定化、伸び悩み。(PR方法を工夫している。)
- ・ 子ども対象の事業において、学校との調整が難しい。(年間計画の際に組み込んだり、普段から打合せを行ったりして連携できるようにしている。)
- ・ 小学生の人数は増加しているが、行事に子どもが参加する人数は減ってきている。(小学校との連携を深めたり、各種団体や各地区での呼びかけをお願いしている。)
- ・ 平日開催の行事に参加者が少ない。(行事を土日に開催するよう予定を変更した。)
- ・ マンネリ化になっている。(公民館主事同士の情報共有を密にし、課題解決を図っている。)

(14) 子ども会の現状

- ・ 年々会員数(子どもの人数)が減っている。(特になし。)
- ・ 生徒数の減少に伴い、文化祭に向けての取組が難しい。(少人数でも可能な取組を考えて行っている。)
- ・ 年々、児童数が減少しており、子ども会としての活動が十分に行いにくい。(子ども会の行事などに参加していただくよう、保護者などに呼びかけを行っている。)
- ・ 会員数の減少により活動が困難な子ども会が出てきている。(子ども会の区割りの変更を行った。)
- ・ 低学年児童の増加に伴う活動内容の充実と仲間づくりの難しさを感じている。(活動内容や関わりなどについて検討、改善を行っている。)

(15) 目的少年団体の現状

- ・ スカウト数の確保。(ボーイスカウトの活動を知っていただくために、一般の方が参加するイベントを実施する。)

- ・ 指導者が高齢化している。(若手指導者を育成するために、研修検討委員会を立ち上げた。)
- ・ 少女スカウトの継続が難しい。(魅力的な集会の企画する。)
- ・ テンダー部門(年長)の加入が少ない。(体験集会への呼びかけ・チラシ作成・SNSで発信する。)

(16) 青年団体の現状

- ・ 団員数の減少。(既婚者も継続して団員となることで活動を維持している。)
- ・ 名簿としての団員数は一定程度あっても、実際に活動に参加できる団員が少ない。(気軽に参加できる企画。団員外も参加してよい交流会などを持つようにしている。)
- ・ 活動時間がなかなか取れない。
- ・ 団員が役場職員に偏っている。自治会制度が推進されるにつれ、自治会での活動が充実し、青年団そのものの存在が弱くなっている。(青年団活動の先進地への視察研修など、団員のモチベーションアップを考えている。)
- ・ 同職の青年グループにつき、横のつながりが少ない。(特になし。)

(17) 婦人団体の現状

- ・ 会員の減少が課題である。(活動を充実させ、活動してよかった、楽しかった、役立ったなどと実感してもらおう。他の活動を通しての誘い。婦人会事業を行うときに会員だけではなく市民全体に呼びかけ参加していただく。)
- ・ 会員数の減少と会員の平均年齢が上がっていること。(婦人会活動だけでなく、他の活動においても声かけを行っている。様々な年代の方が参加しやすい活動内容を考えている。)
- ・ 会員の高齢化や加入者の減少。(事業内容の見直しや役割分担により負担軽減を行っている。)
- ・ 会員の高齢化と後継者不足。(各地区婦人会活動の継続・活性化に向けて、計画的に役員人事や新規会員の勧誘を行う。関係諸団体や関連機関と協力を図り、地域に貢献する婦人会活動の継承に努める。)
- ・ 会員の高齢化と執行部役員不足。(子育て世代の母親が参加できる講座の開催。小学生を対象に伝統行事・郷土料理の継承。高齢者学習交流会の開催。)
- ・ 後継者不足で役員の交代ができない。(現在活動をしている地域婦人会に連合婦人会への加盟を呼びかけている。)
- ・ 代表者を引き受けてくれる方がいないため、休会になった支部が出てしまった。(少ない人数でも頑張って活動してくれていることに感謝の気持ちを口に出すようにしている。)
- ・ 今年度は高齢で名前のみだった会員の見直しがあり、会員数がずいぶん減少してしまった。(役員にのみ負担がかからないように、役員全員の意見をいろいろと聞きながら活動をしていくことを心がけている。)
- ・ 会員の意識を高めるための研修の工夫。(伝統と新しい文化との学びの場を持ち、充実感が得られる魅力ある婦人会活動を工夫する。)
- ・ 単位婦人会で参加する地域の行事が多くなってきていて、婦人会全体で行う行事の日程調整が難しくなっている。(出来るだけ多くの方が参加できるように日程調整を行っている。)
- ・ 加盟単位婦人会員数をさらに増やすこと。(お互いに情報交換をしながら、他の婦人会の取組を参考に対策を考えている。)
- ・ 若い世代の会員の確保。(保育所、幼稚園、学校での活動を通し、児童・幼児を通じて、若いお母さん方との交流を図る。)

- ・ 地区の方々の婦人会の関心が低い。(南海トラフ等の災害に対して、賛助、共助、公助の関わりを大切にして、隣近所や若い人とのつながりを作る為、話し合いの場を作るように心がける。)
- ・ 会員の減少と高齢化が課題である。(公民館活動を通じて勧誘する。地域の行事や文化祭などに参加して、婦人会活動の内容や存在の大切さをPRしている。PTA行事に協力し、OGの方を勧誘している。)
- ・ 自治会制度が推進されるにつれ、自治会女性部での活動が充実し、婦人会組織が弱体化している。(自治会とのすみわけ。婦人会に特化した活動。)
- ・ 婦人会は10年ほど前になくなっている。(女性が構成員である団体をまとめた女性団体連絡協議会を構成している。)

(18) 愛護班の現状

- ・ 活動がマンネリ化している。(情報交換を行うことで、他の取組を参考にするようにしている。会員の希望を聞いて、興味の深い活動を実践している。)
- ・ 児童数の減少に伴い、行事を運営する上で負担が大きくなってきている。(児童数の少ない班を統合しながら、活動のしやすいように再編成している。)
- ・ 愛護班会員数が減少している愛護班があり、十分な活動を行えない地区がある。(合同で行事を行う、愛護班を再編成する等の方策を検討中。)
- ・ 参加人数が低迷している。(地域内外に広く参加募集を呼びかけている。)
- ・ 会員数の増加により、児童の輸送が困難である。(校区の近くに大型ショッピング施設ができたので、できるだけ活用する。)
- ・ 世帯数の減少により、単位愛護班での活動が難しくなっている。(環境整備活動なら一斉で、レクリエーション活動なら複数の愛護班合同で実施を考えている。)
- ・ 少子化に伴う世帯、班員数の減少・愛護班の設置取りやめ。(愛護班活動の周知と勧誘。)
- ・ 活発なところもあるが、全体としては少子高齢化で活動の回数、規模が縮小傾向にある。(できるだけ負担がかからず、気軽に参加して楽しめる事業を検討している。公民館と連携して事業を行っている。地域資源を生かした、郷土愛を育む事業を心がけている。)
- ・ 指導者を確保するのが難しい。(地域の「コミュニティ推進委員会」と連携を図っている。)
- ・ 地域の連携ができにくくなり、活動が低下してきている。(班長を中心に、地域の活動を焦点化し、活動するようお願いしている。)
- ・ PTA活動と同じと考える地区もある。
- ・ 愛護班という名称ではなく、学団という区分で組織した班で子どもたちの楽しめる活動を行っている。(活動への参加は強制ではないが、子どもの健全育成のための活動として理解を求めるようPTA総会や地区別懇談会等の機会を通して呼びかけるようにしている。)
- ・ 活動中の児童や保護者のけがについて心配している。(愛護班保険に加入している班もある。)

(19) PTAの現状

- ・ PTA活動はあくまでもボランティアであり自分の時間を割いて活動するため、家庭の事情や生活スタイルの違い、また活動に非協力的な方もいるので、その方々にどのように協力してもらえばいいのかを苦慮している。(活動内容に対して毎年、これまでの活動で改善すべき点を洗い出し負担軽減を検討している。)
- ・ 地域の人にはたくさん協力してくれているが、小・中学校の保護者の協力が少な

- い。ほとんどはPTA役員である。（「お願い」のプリントを配布する。）
- ・ 共働きの家庭の増加により、平日昼間の活動が人手不足になる。（全家庭に向けて、活動のお知らせと募集を呼びかけている。総会を夕方に行うなど、参加しやすい時間帯の設定や、役員からの参加呼びかけを継続する。）
 - ・ 共働き家庭が多く、PTA活動への参加の見通しが立てにくい。（活動参加希望確認カードを学期ごとに配布し、PTA活動への参加・協力を促している。）
 - ・ 仕事の都合で参加人数が減少してきている。（活動の時間帯や他の活動と一緒にできるかどうか検討するように計画している。）
 - ・ 共働き家庭が多く忙しいため、平日のPTA活動（親子感動体験、啓発事業など）に保護者が集まらない。かといって、学校も多忙なため、土日や祝日を親子感動体験のために開校できない。また、来校する保護者は決まっている。（参加者が少なくてもやり続ける。PTA役員に呼びかけてもらっている状態である。）
 - ・ 父親部の活動には多くの親子が参加しているが、部員の減少や参加者の固定化が懸念される。（父親部の参加は、PTA総会で呼びかけ、地域でも声をかけあって参加を促している。）
 - ・ おやじの会に参加する父親が減少し活動が難しくなっている。（今年度から、おやじの会にPTA役員（副会長）が参加し、企画・運営を行っている。）
 - ・ 全児童、全家庭が参加しているが、特に「船頭」をする父親の参加が少ない。（行事への参加を促すとともに、行事の時間、プログラム、内容を再考し計画を立てる。）
 - ・ もちつきを行う男性の参加が少ない。（会長が中心となって、個別に参加をお願いしている。）
 - ・ 昨年度は、キャンプ活動を1泊2日で行ったが、1泊2日で行うと未就学児や中学生のいる家庭の母親は参加しにくい。今年度は、泊の実施は検討中。父親の協力が必要。（食事の準備や後片付けを簡略化し、保護者の負担を軽減する。（使い捨て紙食器の利用など。）
 - ・ 児童数（家庭数）の減少により、今までの行事の運営をPTA会費で賄っていくことが年々難しくなっている。（できるだけPTAの行事にお金がかからない方法を検討している。（業者に頼んでいたことを、PTAや教職員の作業で行うなど。）
 - ・ 保護者も非常に協力的だが、強いて言うなら、会員数の減少により、PTA収入が減少していることが課題である。（事業部を中心に事業収入を増やすよう働きかけをしている。）
 - ・ PTA及び体育文化後援会の活動資金。（寄付金などの依頼）。（準会員の賛同を得るため広報などを全戸配布している。繰越金が多いので、準会員の負担を減らした。）
 - ・ 会計管理が複雑で、金銭の取扱いに苦慮している。（例年会計幹事が金銭の予算・決算の管理を行っている。）
 - ・ 本部役員の選出（希望者の減少）。（PTA活動や役員の仕事に関して、会員からの意見を聞く場を設けたり、PTA活動や役員の仕事分担に関する見直しを図ったりするなど、会員の負担感を減らす。）
 - ・ 会員数の減少により、役員の確保が困難なこと。（会員数の現状に合わせた活動内容の見直し、役員数の改定。）
 - ・ 生徒数減少による役員選出。（役員だけでなく、地区保護者全員の協力体制をつくる。今年度から家庭数の多い地区から6名の専門部員を出していただくようにした。）
 - ・ 会員減少に伴いPTAの活動がしにくくなっている。本部役員選出が年々困難になっている。（各学年で本部役員の選出方法を考えていくことにした。）

- ・ 児童数の減少に伴い、家庭数が減少し、役員を選出が難しくなりつつある。(現在検討中である。)
- ・ 役員が複数の役割を抱えて仕事量が増えている。(会長や副会長が中心となり、PTA活動の良さを広め、全会員に関わる機会を提供している。)
- ・ 工夫として、児童・家庭数の減少に応じた、PTA役員数、組織のスリム化を検討し、本年度より取り組んでいる。
- ・ PTA活動で平日開催のものが多く、本部役員の負担が大きい。(今年度各活動内容を検討し、負担軽減を図る。)
- ・ 会員数が極小規模のPTAであるため、生活研修部と保健体育部の2部会に全員が所属し、全員が常に活動を行っている状態である。(児童数も少ないので、活動を精選したり、活動のポイントを絞って行ったりするよう心がけている。)
- ・ 関係団体の活動が多く、PTA役員の負担が多くなっている。(本部役員で協力しながら対応しているが、共働き家庭も多く軽減を求めている。)
- ・ 会員数の減少などで、活動を維持していくには、一人一人の負担も増加している。(会員数の減少は食い止められないところだが、地域の様々な団体と協力体制を整えながら、極力PTA活動が負担にならないよう努めている。)
- ・ 児童数の減少に伴い、会員数も減少し、他校と同様のPTA活動や、例年通りの行事を行う上で、一人一人の負担が大きくなる。
- ・ 工夫として、年間行事から、あらかじめ各部会に人数割り振りをしておき、最初の専門部会で仕事分担をするようにしている。
- ・ 保護者の数が減ってきており、保護者の負担とならないよう活動や組織を少しずつ見直したい。(各部委員会を活性化させる。行事精選と充実を図る。)
- ・ 会員数の減に伴って、一人が何役も受け持ち活動している現状である。(全家庭で親子奉仕作業を行うようになった。)
- ・ PTAの数が少ないため、どうしても、プール清掃や地域清掃でのPTA会員一人当たりの負担が大きい。(プール清掃では、洗浄機を購入し、効率的に清掃ができるようにしている。また、地域清掃では、地域の協議会などの地域の人の協力を得ている。)
- ・ 全ての活動を少人数で行わなくてはならない。(校区外からの転入生を受け入れている。)
- ・ 児童数の減少に伴い、参加者が少なくなっている。(地区によっては対象児童学年の枠を広げている。)
- ・ 少人数であり、団体活動(多人数)ができない。
- ・ 奉仕作業について、家庭数の減少により、保護者だけでは対応することが難しくなっている。(今後、自治会にも協力を依頼し、ボランティアで参加していただくことを検討している。)
- ・ 家庭数が少ない。(各家庭の意識が高く、とても意欲的に学校に協力してもらっている。)
- ・ 保護者の参加がPTA役員に偏りがちである。(各種行事への参加・手伝いを呼びかけている。)
- ・ 会員間でPTA活動の参加意欲の差がありすぎる。(学校のホームページや学校だよりなどで積極的に呼びかける。)
- ・ 大規模校であり、会員の活動への参加意識の低下。(活動は、専門部が中心に運営していくが、計画、運営の際に、会員の声を聞くように配慮している。)
- ・ 部活動の大会と重なり、活動に参加できない親子がいる。(日程変更が可能な部活動の練習試合などはできるだけ変更する。)
- ・ できるだけ全ての保護者に出席してもらいたいと考えている。(保護者が参加しやすいように、週休日に実施する。参観授業を行うとともに、親子会食の準備も

親子共同作業とするなど、保護者の活躍場面を設定して主体的な運営となるようにしている。)

- ・ 参加者の減少。(ビンゴゲームやバーベキューなど、参加者が楽しめそうな企画をしている。)
- ・ 講演会などへの保護者の参加意欲が高まりにくい。(研修会を子育てに関するものはもちろん、心身リフレッシュのためのヨガ教室、落語鑑賞など、保護者の関心や参加意欲を高めるような内容も企画している。)
- ・ 参加人数の減少、参加者の固定化。(本部役員を中心に参加呼びかけの実施。PTA一斉メールによる参加呼びかけ。)
- ・ 研修活動への参加意欲の低迷。(業者インストラクターによるスマホ教室の実施。人権参観日での生徒による集会活動の実施。)
- ・ 参加人数の確保。(各種通信やホームページなどで発信していく予定。)
- ・ PTA活動の目標である「全員の参画」まで至っていない。(PTA組織の在り方を見直している。)
- ・ 会員数(生徒数)の減少。(組織編制の見直しを検討する。)
- ・ 会員の減少。(小中合同での行事開催。)
- ・ PTAの数が年々減少している。(本校では、一部の保護者だけでなく、会員全員でレクリエーション活動に取り組み、会員間の親睦を図っている。)
- ・ すべての家庭に情報が届きにくい。(広報紙・HPでの情報発信。)
- ・ 地域全体に情報発信する機会が多く、全体に行き届かないこともある。メールなどを使いたいが高齢者も多く徹底できない。(地区役員、広報委員に協力してもらいながら、情報交換を行っている。)
- ・ 地域代表の役員が、PTA会員ではない場合、連携が取りにくい。(生活指導部の役員を各地域から選出することで、少しでも連携がとれるように配慮している。)
- ・ 地域の過疎化に伴い児童数・PTA会員数が減少し、小・中学校での各地域(学団)の枠組の見直しも必要になってきている。(町の小中学校PTA連合の役員会での話し合いなどでPTA相互の連携を強めたり、地域の諸団体と協力し合って地域行事や講演会などを盛り立てるようにしている。)
- ・ 連携を密にし、協力して児童の健全育成に一層取り組むこと。
- ・ 統合により校区が広域になり、会員数も大幅に増えたため、どのように連携を図っていくか。(専門部会員を継続することで、連携を密にしていく。地域との連携、他校との交流。)
- ・ 今年度小学校が統合となり、旧の小学校のこれまでのPTA活動をどのように取り入れていくかを検討する必要がある。(今後、支部の統合も検討していく。)
- ・ 地域と合同の行事は、内容や実施日の変更が難しい。(実行委員会で改善点について提案して、変更を求めている。)
- ・ 小学校から離れた場所で実施するため、入念な計画立案が求められる。(職員会やPTA役員会などを利用して、教員同士、保護者と教員との打合せの時間を確保するようにしている。)
- ・ 特定の地区で児童数が急増しており、行事を行う際は、他地区とのバランスをとるのが難しくなっている。
- ・ 家庭教育に関する学習機会が少ない。(人権同和教育参観日、健康教育参観日を利用した家庭教育研修を行う。)
- ・ 稀に、保護者同士で対立があると、なかなか解決できず、そのコミュニティーの長年の課題になってしまう。(各地区ごとや、学年ごとの行事ばかりでは人間関係も固定化されてしまうので、縦割り班の活動も計画し、人の輪を広げている。)
- ・ サマーキャンプの安全確保。(できるだけ多くのスタッフを集める努力をすると

ともに、活動内容を吟味して安全の確保に努めている。)

- ・ 学級対抗で行っていたが、人数に差があり、バランスが難しい。(今年度は縦割り班対抗にして人数をそろえた。)
- ・ 工夫として、会長、副会長が専門部の活動に協力し、支援をしている。PTA行事には、教職員も積極的に参加・協力している。
- ・ 工夫として、環境衛生部や父親部が中心になって、四季折々に全会員に呼びかける。保護者と生徒がともに環境整備や花の苗植えを行う。

(20) おやじの会の現状

- ・ 発足初年度なので、すべてが手探り状態である。(できることを無理なく行い、継続した活動ができるようにしている。)
- ・ 会員数が少ない。(活動への参加を適宜呼びかけている。)
- ・ 新しいメンバーが入りにくい。(PTA会員・PTAOBを勧誘する。)
- ・ 活動のマンネリ化が課題である。(PTAや地域団体と共催事業を行う。)
- ・ 個々が忙しく、会員の確保が難しい。(PTA企画委員会等において、会の紹介や会員の募集を行っている。募集チラシの配布、行事においての勧誘活動を行う。)
- ・ 仕事の都合があり、みんなが集まるのが難しい。(たくさんの人が出席できる日を選んで会を持つ。)

(21) 県内の登録博物館及び博物館相当施設の現状

- ・ 公開できる収蔵品の点数(=展示スペース)に限りがある。(展示品の入れ替えを行う。)
- ・ 入館者の減少が課題である。(イベントなどの事業の追加と見直し。(展示室での定期的な映像上映、写真撮影への対応。)広報宣伝活動を行う。)

(22) 県内公共図書館の現状

- ・ 読書人口の減少。(特に中高生。)(ヤングアダルトコーナーの充実。広報での啓発を行う。)
- ・ 児童書貸出数の減少。(子ども読書推進活動・幅広い年代対象のお話し会等の開催。)
- ・ インターネット予約などの提供により来館機会が減少し、結果利用の減少に影響していると思われる。(イベントの開催などにより、来館機会を増やす工夫をしている。)
- ・ 臨時職員(司書)の応募減少。(広報誌等で募集を周知している。)
- ・ 蔵書冊数が年々増加していくが、収蔵能力冊数は5年以上前から本館・分館ともに超えており、書架の増設や可動式閉架書庫などへの改修を検討する必要がある。(現状維持を保つため、受入図書を選別し、除籍冊数での調整を行っている。)
- ・ 適正な蔵書管理が課題である。(収容可能冊数を考慮した除籍。)
- ・ 各館とも所蔵能力の上限に達しつつあり、今後は除籍が多くなることが考えられる。(除籍資料の対応について、県・市町の連携施策として提案提出。)
- ・ 寄贈図書の減少。(寄贈図書の呼びかけ。)
- ・ 財政状況の影響を受け、すべての分野において予算が減少している。特に資料購入予算において顕著である。(図書館や読書に興味を持ってもらうためのイベントや行事の開催。市民が解決を求めている課題に対し、図書館としてどのような支援ができるかを掘り起こす。)
- ・ 予算を獲得できる事業企画や、既存の事業の効果説明に取り組むことが課題となっている。(他の図書館や類縁機関と連携し、さまざまな機会を活用して利用者が求める知識や情報を提供するよう努める。)